

750
T2

孫存直拾家

九

4

繪本直指寶卷之九

繪馬并秋仙

家もねらうや吾日乃奉ハ天祚の開きゆく八百万神
の徳、度ゆまた圓されもと上一人の大君より起きて
茶生れとくくまで正直に走れあはば夜の渡り乃
守りに和光日藝海へまして唐天竺といはるゝ國
ありうだたこゆなりあうある故に諸神ふわして餘事など
ひよかひよかとう會ふふをめし良ね勇士も祭祀を替
えりがれり武あれれをあつて成就されれ神もとあはのよ民

百姓も立教法^{まこと}にて武かのぞく御馬に掛り^かれ故
るをあゆひとおれより今にひづてと金て経らとい
てきり又教化^{うせん}に監視^{くわん}に條大納言云住^{すむ}本日六條文具
平教主と^{ひら}の奇人と神像^{しんぞう}に三十人を拝み
集めりて世^よの後^ごへ土作家^じ也^は祓禊^{ひらき}ありてこうひき人九
業^{きわ}卒^{そく}作^{つくり}小町^{こまち}女^{めの}猿丸^{さるまる}は六人を口授^{くじゆ}の大幸^{だい}と
其^{その}冠^{かん}袴^{はかま}來男女の袍^{はふ}ノ^の比^ひ級^きと食^くいあやまう矣
有職の人も白地^{しらぢ}は絹^{きぬ}に但古代の

名^な益^{ます}を考^かむしもに思^{おも}ふも

古^こ事^じを大略^{だいろく}ノ^の摸^{もく}一^い出^でせり



無錫錢袋織之繩力

た
正三位
柳幸人磨
かのくて

人磨の杖をもつて或人の手をも
手の手をもつて或人の手をも
葛藤より一歩と進むと
白刃の流すをもつて或
うれむをもつて或



浦の羽舟
あゆく
まき
ま
や
れ
れ

従の通商の事と結局
えふせんす年々の萬歳いりあざ
葉のうやくとまくと母もたまく竹林と
あうそれともだつてうのとりそと
さかへおふよろとよろ
奴をぬきからむニ猿八葉の者
向うむすむまつ下めうわうう下もまある



右
紀要之

本九

卷之三

卷之三

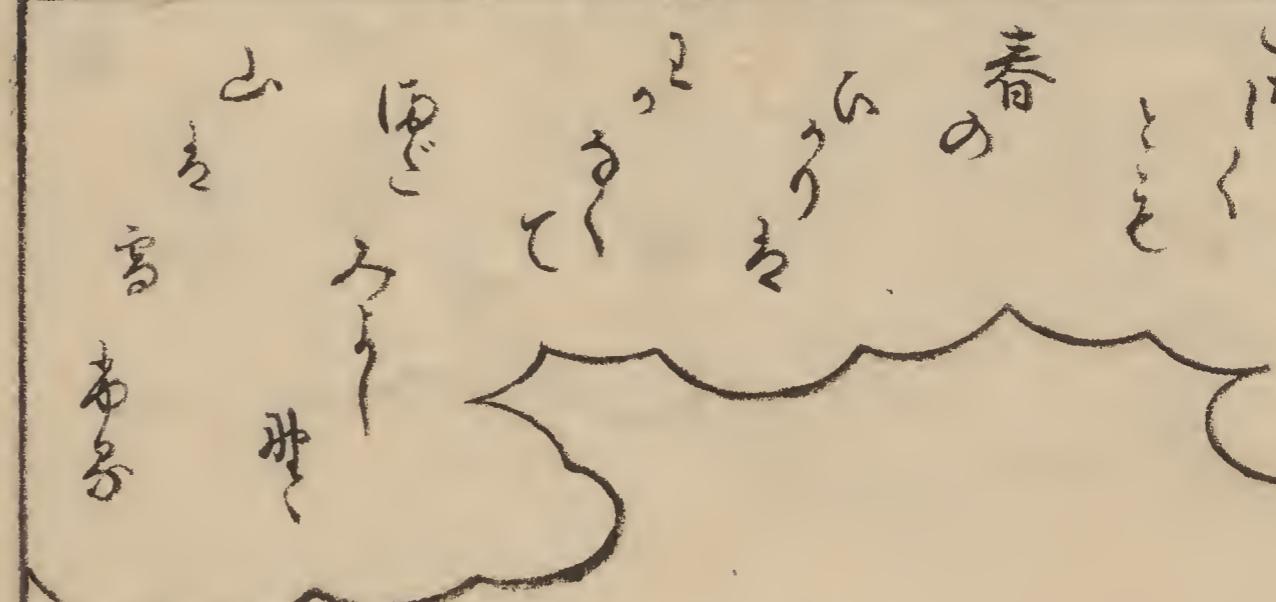
卷之三

おもて
あらわ

九月内船恒

いづく

春の



朱



アサキハモニ

朱



朱

た
中納言かね

ち

左の

腰引

あさみ

きだの

はま

を

の

人に

あわせ

ひづ

一

き

右

ふとく衣人

和赤絞

脚

れぞ

浪

ゆき

ゆき

左の

足

手

やうこかくら
朱とみる

金さん



た

左京葉平加也 本友也

熱ドで此宮妻布代りて此の泡
うしろのとこもよく福よひ
多くへふせんすまほ福をみて泡の
とそとが今幸ぶきりてれ
すとと福と二段うきひき

業率れ福をひなまへつむ
むまやくおそくないのむ
ふせんすまほの福をひき
ゆり

世のゆにきて
孤のまうせば
表れあらわ
のどけ
ゆまと



無錫織物織之繩カ
鈴錠袋縫之繩カ
鈴袋袋縫之繩カ

二四

た
素性法師

足利義満

御福を

あらませて

こちら向
りましや
下あさき
上あさき

み
もあら
りげき
をり
きる



無鉛錦織物編之織力
無鉛錦織物編之織力
無鉛錦織物編之織力

四
七

た
櫻九左衛

さ
きを乃

あ
のきも

山
中に

木
がたう

よ
も

よ
も

よ
も

右

小
野
小
町

り
ひ
な
ま
ハ

身
き

ま
の

み
と

さ
ま
て

あ
ゆ
き

い
く
と

お
ゆ
き

小
町
さ
う
れ
い
の
う
る
の
と
と
そ
の
と
そ
の





無錫
金
朱
絹
之
織
ガ
カ

九
四

た
だらうるあらわ
櫻中納言殿

未

いせの海

らむうの

漁

かく

金

よ

ゆ

あくべ

ゆ

かに

うき

白 未







左
葛原敏翁朝
長

吉原敏行
著

秋之夕

卷之三

卷之二

日乃
高木也

花
海

卷之三

右

風毛月白

四
の

21

も
の

古文苑



た。

源宗子羽長

常盤野

春みどり

れ

ひま

ひま

まり

の



右
源俊明わ長

さひよ

さよ

あひだ

月

君

みどりせ

かや



左

左承清正

文津風

燐

家
君
浦

きど
雲
サ

や
さ
く

さ
く

さ
く

さ
く

源
順

水
の

さ
く

さ
く

か
よ

き
び

さ
く

秋
乃

色
あ

さ
く





た。
波と星則

みうせ
ふの
あまく
はまく
ゆるく
なまく

ほさか
き



た
三條院女尼寺近

いと桜の

よれ

ちぎりも

まへな

あくろ

えり一枝

の神

うる

くろ



右
辰年仲文

きぬ乃

月のひうと

ねやどに

ワ

朱乃

立乃

あみう井

くまく



た。

本多忠重の筆



寫錦袋後編之二



た。

平義盛

く秋海

秋の

ゆく
入に

きく
ゆく

ワ

ま

いそ
をあふ



右
中勢

秋風の

さくには事

り

お

萩乃

葉

きく

きて

・さく



藤原信實

（ちづのゆゑみのり）

傳伝の子 土佐家の祖

土御門院西治年中の人

成文元年（延喜二年）始て

國司に卷の絵

絵を画すと古の

名画考の名を人

勝と云

凡て八十餘年に及

絵を稿本模倣の如く

袖の如くの如きを

移水也



浪速

作者畫工 橘氏守國

京都

丹羽平左衛門

彫刻氏 大坂
藤村善右衛門

延喜二乙丑年十一月吉日

大坂心齋橋順慶町柏原屋

書林 滝川清右衛門版

繪本出来目録

波川称觥堂板

和漢萬寶全書

十三冊
箱入

修仰傳古筆下垂古流源陽正興
刀服馬并解日美利のまもと

繪本寫寶袋

十冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
鳥獸屏風妙之急絃之和聲之妙筆

同通寶志

十冊

農業八景山水画本風雲變化仙人詮證
聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本

同直指寶

十冊

蚕蠶之聖賢仙人武而藝本方美本
聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本

抑絳手鑑

三冊

山あハ系人物花鳥一色屏風
うすを押絵と用ひるゝに絵とて後を

繪本替古帳

三冊

源氏経ふくこととくわう繪本草本
ふくことくわう繪本草本

同清書帳

三冊

源氏経ふくこととくわう繪本草本
ふくことくわう繪本草本

同草源氏

一冊

源氏経八系物くらしを示く

繪本忘草

冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

同心社種

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

三冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

同心山鹿

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

三冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

同心山鹿

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

二冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

同山帳綱目本りの

二冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

武勇経鑑

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

三冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

筆勢武者硯

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

五冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

畫父

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

七冊

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

畫英

聖賢仙人源氏傳武而藝本方美本
萬葉抄の如きを繪考へたる

六冊

